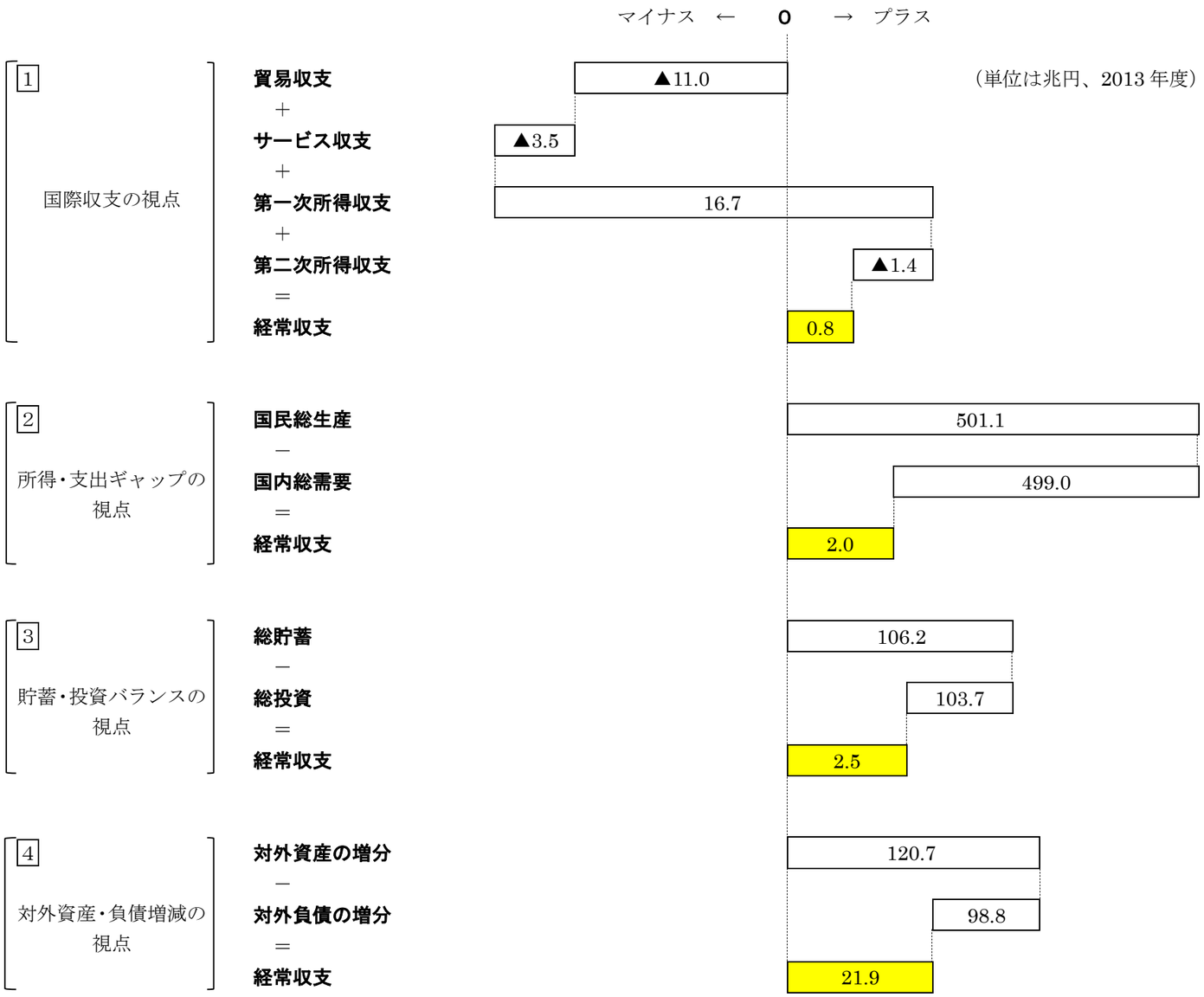
〔　参考資料　〕　経常収支に関する４つの視点

基　本　説　明　（概念図）	補　足　説　明



- 経常収支＝貿易・サービス収支＋第一次所得収支＋第二次所得収支
- 経常収支は 0.8 兆円
- **経常収支悪化の主役は貿易・サービス収支**（貿易・サービス収支は▲14.5 兆円）
- 貿易収支▲11.0 兆円の内訳は、輸出 69.8 兆円、輸入 80.8 兆円である
- 経常収支改善の主役は第一次所得収支
- なお、国際収支は、「経常収支＋資本移転等投資－金融収支＋誤差脱漏＝０」という関係で成り立っているから、「経常収支＝金融収支－資本移転等投資－誤差脱漏」である。したがって、経常収支の額が対外純資産残高の増分となる。

- 経常収支＝国民総生産－国内総需要
  ＝国民総所得（GNI）－国内総支出
- **所得・支出ギャップが経常収支を決定**

- 経常収支＝国民総所得（GNI）－国内総支出
  ＝（消費＋民間貯蓄＋租税）－（消費＋民間投資＋政府消費＋政府投資）
  ＝（民間貯蓄－民間投資）＋（租税－政府消費－政府投資）
- 「民間貯蓄－民間投資」はプラス、「租税－政府消費－政府投資」はマイナス（財政赤字）であるから、**経常収支悪化の主役は政府の財政赤字**

- 経常収支＝対外純資産残高増減（対外資産の増分－対外負債の増分）
- **対外純資産残高の増減と経常収支は双方向で因果関係がある**
- なお、「今期末の対外純資産残高＝前期末の対外純資産残高＋経常収支＋評価損益」という関係が成立。評価損益は資産価格の変動等によるキャピタルゲインやキャピタルロス

（注）　黄色の部分は、本来全て一致する性質のものであるが、現実的には捕捉精度の問題で一致しない。なお、「対外資産・負債増減の視点」で差が大きいのは、評価差損（キャピタルゲイン／ロス）を含むからである。

- 本提言書においては、上記４つの視点のうち、特に第１の視点「国際収支の視点」に重きを置き、特に貿易・サービス収支に焦点を当てた。
- 第２の視点「所得・支出ギャップの視点」については、第３の視点にほぼ包含されると考えた。
- 第３の視点「貯蓄・投資バランスの視点」については、「政府の財政赤字を早期に健全化すべき」という重要な示唆が得られるが、今回の検討対象から外し、今後の重要課題とした。
- 第４の視点「対外資産・負債増減の視点」については、対外資産と対外負債の差分ではなく合計値に着目する考察から有益な示唆が得られるが、これも今後の課題とした。

以上